

平成 26 年度事業計画の取組み方針および概要

1. 取組み方針について

神戸電鉄粟生線地域公共交通総合連携計画（以下「連携計画」）＜平成 25 年度～平成 28 年度＞では、『前連携計画での継続事業の効果をさらに高めていくとともに、特に、前連携計画では十分な取り組みに至らなかった、恒常的な利用者層としての「通勤定期利用者の拡大」施策、粟生線サポーターズクラブ等を通じた「沿線地域が主体となった利用促進・乗車運動」の展開、中長期的な視点も含めた「駅中心のまちづくり」の検討に重点を置きながら、事業を進めていく。』との基本方針が示されています。

平成 26 年度においても、この基本方針を踏襲するとともに、平成 25 年度に実施した通勤カムバック補助金等の施策効果が十分に得られなかったことの反省を踏まえ、各計画ごとに成果を発現させるまでの期間等を設定しながら P D C A（Plan-Do-Check-Action）サイクルを回していくことで、計画目標である年間輸送人員 700 万人台の達成を目指してまいります。

2. 事業計画の概要 ※ 詳細は、資料 5 - 2 参照

◎ 計画事業費見込 31 百万円

計画事業費の内、7 百万円は「地域協働推進事業費補助金」による国庫補助（交付申請中）を予定しているほか、資料 5 - 2 記載の具体的施策についても、事業の実効性や関係先との調整状況を勘案し、適宜見直しを行う場合があります。

◎ 平成 26 年度から新たに取り組む主な施策

- 高齢者割引制度の検討（神戸市）
- 小児運賃無料化やエコファミリー制度の導入に向けた勉強会の実施
（三木市、小野市）
- 既設一般路線の再編を含めた、駅へのアクセスバスの利便性向上の検討、調整（三木市）
- 定期利用者を対象とする「無料シャトルバス」の運行実施に向けた詳細条件等の検討
- 新規就労者に対する通勤定期補助（三木市）
- ビッグデータを活用した利用促進方策検討システムの構築
- 粟生線ブログ駅長による協議会ホームページ上での情報発信
- 粟生線活性化グランプリの開催
- 粟生線活性化ボランティアの登録とその活用

等

以 上

連携計画における方針		平成26年度事業計画の項目		事業の概要	主な具体的施策
(1)	輸送サービスの改善	1	企画きっぷ等の充実	沿線内外の施設やイベント等と連携し、魅力ある企画きっぷの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある企画きっぷの発売 神鉄おもてなしきっぷ、三木金物まつり1dayチケット 神鉄利用者に対する割引特典の付与 小野まつり来場者に対する割引券の配布(小野市)
		2	割引制度の充実	高齢者や子供を含む家族での外出支援を通じて粟生線の利用促進を図るべく、割引制度を検討、導入する。	<ul style="list-style-type: none"> 神鉄高速シニアパスの発売継続 高齢者福祉パスの交付継続(三木市) 高齢者割引制度の検討(神戸市) 小児運賃無料化やエコファミリー制度の導入に向けた勉強会の実施(三木市、小野市)
		3	ダイヤの改善・運行本数見直し等の運行改善	優等列車運行による速達性の向上や利用実態に合わせた運行形態(ダイヤ、運行本数等)について検討し、現状の利便性、効率性の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 優等列車運行による速達性向上の検討 輸送実態に応じた適正な運行形態の検討
		4	快適な駅・車内空間づくり	接客サービスの向上や快適な駅・車内空間づくり等により、安全、安心、快適な輸送サービスを提供し、利用の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 駅前市民トイレの整備検討(三木市)
(2)	駅勢圏(駅の集客範囲)の拡大	5	駅停車エリア、駐車場、駐輪場の整備および駅情報・運行情報等の発信	パーク&ライド、キス&ライド、サイクル&ライドを促進するため、既存の駐車場や駐輪場の定期的なPRを行う。	<ul style="list-style-type: none"> パーク&ライド駐車場や駐輪場の活用、PR
		6	バスとの効果的な接続	駅へのアクセスバスの改善やバスダイヤの調整により、アクセス性の向上を図るとともに、そのPRに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 電車到着時刻と整合を図るコミュニティバスのダイヤ検討、調整(三木市・小野市) 既設一般路線の再編を含めた、駅にアクセスするバスの利便性向上策等の検討、調整(三木市)
(3)	定期利用者と交流人口の拡大	7	沿線立地企業等への粟生線通勤・通学利用のPR	「粟生線通勤カムバック補助金」を更に1年延長するとともに、その実効性を上げるべく、定期利用者を対象とする「無料送迎シャトルバス」の運行実施に向けて。詳細条件等を検討する。 また、自治体における交通政策以外の政策目的と合致する補助制度の創設について検討する。 さらに、協議会が利用促進施策を検討する上で必要な情報(国勢調査やPT等のデータ)を整理するとともに、ビッグデータの活用が図れるシステムの構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「粟生線通勤カムバック補助金」の継続、PR 定期利用者を対象とする「無料シャトルバス」の運行実施に向けた詳細条件等の検討 新規就労者に対する通勤定期補助(三木市) ビッグデータを活用した利用促進方策検討システムの構築
		8	沿線地域における観光資源の活用と魅力の発信	沿線地域で開催されるイベントとの連携強化や、沿線地域における観光資源の発掘・魅力の向上を図るとともに、ホームページやその他広報媒体を通じて、そのPRを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 金物まつり、小野陣屋まつり等地域イベント等との連携 神鉄ハイキング、神鉄イベントとの連携拡大 リニューアルしたホームページにおける情報発信強化
(4)	公共交通優先利用行動の喚起	9	企業や学校、転入者等に対するモビリティ・マネジメント等の実施	公共交通の利用意識を向上させるために、沿線に立地する企業および学校、転入者等に対してモビリティ・マネジメントを実施し、自発的な粟生線の優先利用行動を喚起する。	<ul style="list-style-type: none"> 利用啓発パンフレットの作成 TFP(過度なマイカー依存の見直しに向けた継続的なコミュニケーション)の継続実施
		10	粟生線キャラクター等による活性化のPR	粟生線が地域にとって身近な存在で、持続して親しまれていくよう、粟生線のキャラクターやロゴマーク、ラッピング電車等により、活性化をPRする。	<ul style="list-style-type: none"> 活性化キャラクター「しんちゃん&てつくん」の活用 ハッピートレイン、ミュージアムトレインの活用
		11	沿線自治体職員等による公共交通利用率優先行動	行政等の職員が率先して、粟生線等の公共交通機関を利用するリーダーとなってアクションを起こす。	<ul style="list-style-type: none"> 県市職員等による通勤、出張時等の公共交通率先利用の継続 毎月1回のノーマイカーデーの設定、実施

連携計画における方針		平成26年度事業計画の項目		事業の概要	主な具体的施策
(5)	安全で安定した鉄道輸送サービスの確保	12	国庫補助制度も活用した鉄道施設の効果的な更新等	安全輸送設備等整備事業費補助事業等の国庫補助制度も活用しながら、鉄道施設の効果的な更新等を図る。	・施設の更新、改良による安全性の向上
(6)	沿線住民との協働と沿線住民の主体的な取り組み・参画	13	粟生線サポーターズクラブを通じた沿線住民の主体的な取り組みの推進	沿線の皆さまに、粟生線問題への関心を持って頂くとともに、関心を持って頂いた方が主体的な行動を起こし、他の方にもそれを呼び掛けていただくことで、地域が一体となって粟生線の維持・存続に向けた取り組みができるよう粟生線サポーターズクラブ会員の活動活性化を図る。	・会員の募集強化 ・粟生線サポーターズクラブの活動活性化 ①粟生線ブログ駅長による情報発信 ②ホームページ上での交流促進 ③集い・シンポジウム等の開催
		14	粟生線乗ろうDAY！プログラムを通じた沿線住民、企業、学校、団体等の主体的な取り組みの推進	沿線住民、企業、学校、団体等と協働して、鉄道や駅施設の利用を組み入れたイベントを企画・実行する事で、多くの方に粟生線問題への関心を持っていただくとともに、公共交通の利用意識向上やマイレール意識の醸成を図る。	・「粟生線乗ろうDAY！」プログラムの推進 ①鉄道の利用を組み入れた地域活性化イベントの実施 ②駅や沿線の美化活動の実施
		15	高校や大学と連携した利用促進・啓発活動の推進	一般的に粟生線問題への関心が低い中であっても、沿線の高校生や大学生の中には、粟生線問題を自らの問題と捉え、維持・存続に向けて熱心な取り組みを行う動きがある。これらの取り組みを広く一般に伝え、その取り組みの輪を広げていく。	・粟生線活性化グランプリの開催 活動表彰および提案の募集
		16	小・中学校や幼稚園を対象とした利用促進・啓発活動の推進	中学生以下を対象として農業体験や、七夕装飾、クリスマス装飾などの学習プログラムを実施し、マイレール意識の向上と利用促進を図る。	・農業体験等の校外学習企画の提供 ・幼稚園や保育所と協働した七夕装飾、クリスマス装飾等の実施
		17	神戸電鉄と地域との交流を促進するイベントの推進	地域参加の要素を組み込んだ鉄道イベントの開催やラッピング列車の活用等により、神戸電鉄と地域の交流を促進し、利用啓発ならびに利用促進を図る。	・トレインフェスティバル等地域連携イベントの実施 ・北条鉄道等と連携したイベントの検討、実施
		18	鉄道を利活用する沿線住民の主体的な活動やイベント等を協議会が支援する仕組みの構築	地域や個人の鉄道利用を推奨するため、既存の制度をPRするとともに、新たな支援制度を検討する。	・神戸電鉄粟生線利用促進活動補助金の継続、PR ・粟生線活性化ボランティアの登録とその活用
(7)	駅を中心としたまちづくりの推進	19	駅周辺に都市機能を集積するための施策の検討	ニュータウンにおける若者向け住宅の供給など、地域特性に応じた住宅地の整備や事業用地の形成による駅周辺への人口集積策を検討する。	・まちづくり協議会を通じた共同住宅供給の検討 (三木市・緑が丘地区)
		20	駅周辺への市民生活に係るサービス施設などの立地促進・施設誘致	駅周辺への市民サービス施設(行政出先機関、病院、保育園、高齢者デイサービス施設、商業施設等)の誘致・集約化を検討するとともに、駅周辺の道路や歩行者空間の改善を図る。	・三木市民病院跡地活用(社会福祉施設)の推進 (三木市)
		21	駅周辺での賑わい拠点の創出	駅周辺の空き地や空き店舗対策を実施するとともに、既存の店舗や商店街との連携して賑わい拠点の創出を図る。	・駅前商店街(小野駅前商店街やナメラ商店街等)や市民団体と連携したイベントの実施 ・三木駅の駅舎活用の検討(三木市・神鉄)

(注) ※ 太字および網掛けは、重点的に取り組む施策を示します。また、自治体が単独又は神鉄等と連携して行う事業は()に事業主体を記載しております。

※ 上記の事業は、神戸電鉄の設備や敷地を利用すること、神戸電鉄が従来から行っている事業との整合を図る必要があること、各事業間での調整・連携のため統合的な管理・運営が必要であること等の理由から、自治体が単独で行う事業を除いて、原則として協議会が神戸電鉄へ委託する形で実施します。

※ 上記の事業は、事業の実効性や関係先との調整状況により、実施時期や事業の詳細内容について、連携計画の枠組みの中で見直しを行う場合があります。